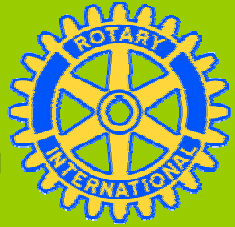


R I 第2820地区
土浦ロータリークラブ
創立 1958年2月14日
承認 1958年3月7日

R I 第3520地区
姉妹クラブ
台北陽明扶輪社



TSUCHIURA WEEKLY REPORT

会長 山本 和男 幹事 白田 八束 【URL】 <http://www.tuchiura-rc.org> 【E-mail】 office@tuchiura-rc.org
事務局：土浦市中央2-16-9（常陽銀行4F） 【TEL】 029-822-1250 【FAX】 029-824-8830



“スクラッチ会” 9/25 宍戸ヒルズC.C 西コースにて

RI（国際ロータリー）の創立：1905（明治 38）
日本のロータリー創立：1920（大正 9）

RI 会長

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

2005年～2006年度 国際ロータリーのテーマ

超我の奉仕

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

2005～2006年度

10月第1例会プログラム

10月6日（第2355回）

点鐘
国歌斉唱
ロータリーソング
来賓紹介
ビジター紹介
会長挨拶
誕生祝
幹事報告・委員会報告
会食
卓話

会長
奉仕の理想
会長
親睦活動委員会
親睦活動委員会

「米山月間に因んで」

地区米山奨学委員会総括委員長 三上 昭紀氏（水戸南）
S . A . A
出席委員会
会長
それこそロータリー（2）

にこにこBOX

出席報告

点鐘

ロータリーソング

格調高く、和やかに

例会場：ホテルロイヤルレイク土浦／例会日時：木曜日 12:30～13:30

VOL. 13

先週の例会報告

1. 筑波大学図書贈呈式

図書 100冊
蒋介石書簡集 1冊

<ご出席者>
筑波大学附属図書館長 植松 貞夫 氏
筑波大学大学院教授 稲垣 泰一 氏
筑波大学大学院教授 伊原 大策 氏



筑波大学附属図書館長 植松 貞夫 氏

この図書は、1984年からこれまで寄贈いただいた蔵書と共に、研究に役立てたいと思います。筑波大学は、昨年の法人化にともない、地域と共に歩む、開かれた大学というものを目指しております。同様に、大学図書館も、市民の利用を考え利用規則等を改めてきております。

筑波大学には、245万冊の蔵書と多くの電子資料がございますので、皆様も生涯学習、ビジネス、個人レベルでの調べ物等に大いにご利用ください。

2. 卓話 筑波大学大学院教授 伊原 大策 氏



本日は、お招き下さいましてありがとうございます。筑波大学大学院人文社会科学研究科の伊原と申します。

筑波大学図書館には、毎年貴重な書籍をご寄贈下さいまして、誠にありがとうございます。本日は、ご寄贈いただいている本に関する話題をお話申し上げることで、いささかなりとも感謝の気持ちを、表したく存じます。

「中国俗文学叢刊」は、台湾の中央研究院が編纂している資料で、中国の俗文学作品の古い資料を集めて、大規模な叢書としたものです。この叢書は、これまで埋もれていた明代や清代の資料を発掘し、信頼性の高い形で復元した点に学術的価値が

あります。台湾の中央研究院は、世界の中国学研究の中心的存在ですので、ここで編纂されたこの叢書は、外国の研究者にとって、資料の信頼性という点で真に得がたいものがあります。同時にこの書は、所謂「低俗な内容」の本を集めて、叢書として扱っている点にも特徴があります。ここで言う「低俗な内容」とは、あくまでも、中国の伝統的な儒教の概念に基づく意味での「低俗」という意味です。

中国では、長い間「俗文学」は、「低俗」であるがゆえに価値が認められず、それに関する資料が不足しておりました。俗文学に関する実証的研究を行おうとしますと、資料が不足しているという根本的な問題に突き当たってしまいます。しかしこの「中国俗文学叢刊」は、通俗的な文学活動の資料を掘り出して集めたものですから、資料不足という大きな問題を解決するのに、力を発揮してくれるわけです。

そこで、今日は、伝統的な中国社会に於いて、通俗的な文学が、どのように扱われてきたかという話を申しあげながら、ご寄贈頂いております「中国俗文学叢刊」という資料の価値について、お話し申しあげます。

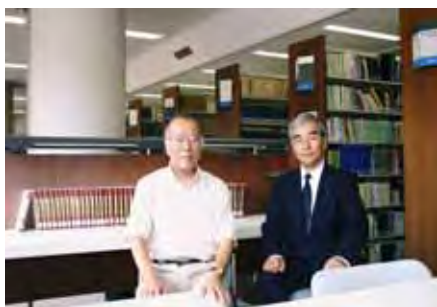
そもそも所謂「文学」という言葉は、既に二千年以上前に、中国の知識人が使っていた言葉です。例えば孔子は論語の中で、人間にとって『徳行（人徳に満ちた行い）』『言語（言葉使い）』『政事（政治）』そしてこの『文学』の4つが極めて大切であると述べております。ここでの『文学』というのは、古い時代からの文献に関する学問、そして政治を行うにあたって、欠かすことの出来ない儀式に関する知識、さらにそれに伴う音楽などを指します。

中国の伝統的な学問における『文学』という言葉は、あくまでも儒教的な概念に基づくものを指すのであり、即ち「古の聖人のお教えを文字に表したもの」という事になります。そのため、例えば「一人旅をして楽しかった」とか「恋愛をして楽しかった」と言う感動はそのまま述べただけでは、文学ではありません。単なる言葉遊びです。

では、儒教的な意味での文学としてどんなものがあるかといいますと、例えば紀元前600年の中国で成立した「詩経」という作品があります。これは現代の観点から見ると、古代の民衆の感情をおおらかに謳った『詩』なのですが、これが儒教によって『文学』と認められたのは、詩という形式の芸術だからではなく、古代の聖人の言葉を反映したものだからです。

日本では、唐代の詩人の作品が好まれておりますが、これらの作品が、中国語の本来での意味における『文学』として認められるのは、あくまでも古代の聖人の教えに従った作品であるとして鑑賞されるからです。

一方、そうした作品に対して、500年ほど前に成立した<水滸伝>という作品があります。この作品は、何人もの豪傑が活躍して、弱きを助け、強きをくじく話です。これは読んで真に痛快なのですが、中国の伝統的な知識人からは、



この作品は強く批判されています。と言いますのは、この作品で活躍する豪傑は、殆どが強盗や殺人を犯した人々だからです。従いまして、中国の伝統的な観念に基づけば<水滸伝>は文学作品ではありません。

また今から 1000 年ほど前に成立した作品に<西廂記>という作品がございます。この作品は、若い男女が互いに清く熱い思いを抱きながら、両親の反対を押し切って恋愛を成就させるという話を感動的に描いた作品です。ですから、現在の日本の考え方に基づけば、これはすばらしい文学作品であるはずですが、ところがこれも、昔の中国では文学として扱われません。両親の反対を押し切

って恋愛を成就するのは、古の聖人の教えに反し、獣に等しい行為だからです。

中国の伝統的な観念では、<水滸伝>や<西廂記>は、『盗みを教え、浮気を勧める書物』とみなされ、批判の対象となります。例えば今から 400 年ほど前の明の末に金聖嘆という人物がおりまして、この人は自らの出版物で「<水滸伝>や<西廂記>は、古代の聖人の教えに勝る作品である」と言いました。その結果、牢獄の中で死ぬ結果となりました。

昔の中国において、文学というのは、あくまでも聖人の教えに従うものでなくてはなりません。つまり『文学』とは、『聖なるもの』であり『通俗なもの』であってはなりません。従いまして、本来は『通俗文学』という表現はあり得ないもの、それは「低俗な内容の高尚なる学問」ということになり、相矛盾した形容詞が並んで使用されることに等しいからです。

かつての中国において、こうした考え方は、非常に根強く定着していたものであり、つい最近まで『俗文学』という用語は存在しませんでした。ところが今から 60 年程前になって、中国の「鄭振鐸」という人物が、一般大衆に流行している読み物や、民間の伝承の物語などを指して『俗文学』と呼び始めました。それ以来、『俗文学』という表現が、社会的に認知されるようになりました。

では、鄭振鐸がなぜ『俗文学』という言葉を開発できたかということ、近代になってヨーロッパから押し寄せてきた西洋の文化の影響でした。

具体的には、この言葉の変質には中国語に対する日本語の影響があります。日本は明治になって近代化に成功し、1894 年の日清戦争に勝利を治めました。戦いに敗れた中国は、自分の国の近代化を促す目的で、多くの留学生を日本に送り込むようになりました。こうして、近代西洋文明がもつ literature という概念が、日本語の『文学』という語に翻訳され、日本で学んだ中国人留学生によって『文学』という言葉が再び中国に持ち帰られることになりました。ここに『古代の聖人の教えではない文学』という概念がようやく広まることとなったわけです。

この『文学』は、もはや『聖人の聖なる教え』ではありませんから、通俗な内容のものでも、かまわないわけです。人間の精神活動の結果、作り出された芸術が文学である、という認識が生まれます。ここで初めて『通俗』という言葉と、『文学』という言葉が矛盾することなしに結合することになりました。『通俗文学』すなわち『俗文学』という言葉の誕生する基礎が、ここにこうして成立したわけです。これが、先ほど申しました鄭振鐸という人物が『俗文学』という言葉を使い出した背景です。

さて、現在、中国では、新しい概念に基づいて研究活動が行われるようになりましたが、しかし、台湾の中央研究院というところは、伝統的な中国研究のいわば総本山ですので、アカデミックであるとともに、保守的な一面をも併せ持っていました。ところが、近年は、台湾の『通俗的なもの』を正式の研究対象とする動きを見せています。例えば、これまで全く無視されていた台湾高砂族の文化も中央研究院の研究対象となっています。そして、土浦 R C 様からご寄贈頂いている「中国俗文学叢刊」の出版もそうした動きの一つとして行われたものです。

現在、台湾の陳水扁総統のもとで、多面的な価値観を共有することを目指して、新しい社会を建設中です。そのため、台湾は、かなりの程度親日的な政策をとっております。私は、学生時代に同級生だった台湾人留学生を通じて、時々聞き及ぶことがあるのですが、かつてロータリー奨学金を受けた少なからぬ数の留学生が、現在、台湾社会の中枢部で活躍している事が、こうした親日的な政策が実行される背景の一つになっているようです。

私の周囲には、台湾人留学生が多いだけに、日本の R C が台湾に対して大きな貢献をなさっていることを存じております。例えば、台湾の文化大学日本語学科が設けている「土浦文庫」は土浦 R C 様にご寄贈になったものだと聞いております。

そうしたわけですので、わが筑波大学図書館へ「中国俗文学叢刊」をご寄贈いただけるにつけて、土浦 R C 様の社会貢献の大きさを改めて認識しております。この席を借りまして、国際交流へのご貢献に心よりの敬意を表すると同時に、筑波大学図書館へのご好意に対し、厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。



第1回STARプログラムを開催 坂本 榮 会員

ロータリー活動についてのビギナー勉強会「STAR(Special Training for Action in Rotary)委員会プログラム」の会合が、9月22日(木)夜、かね喜本店で開かれた。本年度第1回目の同会合には入会3年未満の会員と理事役員約20人が参加、クラブ活動の基礎を勉強すると共に、親しく杯を酌み交わし、ロータリー活動の「本質」について理解を深めた。

冒頭、山本和男会長が挨拶、「STARプログラムの開催は今年度で3年目になる。新しい会員にはロータリーについての情報を仕入れて頂き、会員同士、役員との親睦を深めて頂きたい。また、8月25日の萩原ガバナー公式訪問を無事済ますことができ、会員の皆様には感謝している」と述べた。

その後、10月14日(金)から16日(日)にかけて、新治村の県中央青年の家で開かれる第26回「RYLA」について2820地区ライラ委員長の岩瀬市朗会員から、懇切丁寧なレクチャーがあった。新しい会員のほとんどが、初めて聞く「RYLA」とは「Rotary Youth Leadership Awards」の略。公式訳は「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と硬いが、岩瀬氏によると、ロータリアンと指導者の素質があるヤングが2泊3日で合宿し、地域社会の諸問題、社会的・道徳的責任などについて議論し、若い人にグループ討議についての経験を積んでもらう場。同プログラムに関連して、ロータリー情報委員長の福田博会員から「メンバーの企業から社員を参加させて欲しい」との要望があった。また、福田会員から今後のSTARプログラム日程について、11月「クラブ奉仕とは」(何日かは未定、霞月楼)、来年2月「分区とは、IMとは」(同、四川飯店)、来年6月「クラブ定款、細則」(同、かね喜「一ノ蔵」)のテーマで、それぞれ予定しているとの説明があった。

一連の中味の濃い勉強の後、STAR委員長の飯山孝之会員の乾杯で懇親に入り、かね喜本店お勤めの秋の味覚、お酒を楽しんだ。



ここにこBOX

9/22 23,000円 累計 597,000円

高木(彬)君~皆様のご支援のおかげで、長寿会員として敬老の日を迎えました。感謝いたします。

これからも頑張ります。お世話になります。宜しくお願い致します。

渡辺(俊)君~図書贈呈、無事終了しました。ありがとうございます。

多少なりとも中国の俗文学について親しめればと思います。

黒田君~霞ヶ浦総合公園清掃、ご協力有難うございました。

倉持君~株で少し儲かったのでニコニコします。

中桐君~一寸、良いことがありました。

メイクアップ

竹中・辻(9/15 RAC)、海老原(9/20 土浦南)

出席報告

会員	欠席	出席	出席免除	出席率
70名	10名	60名	11名	83.05%

誕生祝(10月)

会 員		奥 様	
高橋 正道君(1日)	堀越 恒夫君(14日)	廣瀬 信子様(1日)	
大槻 利夫君(4日)	佐藤 二郎君(17日)	峯嶋 絹子様(11日)	
島田 貞雄君(6日)	小原 芳道君(19日)	杉山 幸子様(24日)	
青木 孝之君(8日)	倉持 武久君(21日)	福田香代子様(25日)	
廣瀬 昭雄君(14日)	宇田川仁一郎(26日)	小網 和子様(31日)	
山本 和男君(14日)			

例会予告

10/13 卓話「新聞の限界と可能性」 坂本 榮 会員

10/20 卓話「職業奉仕月間に因んで」 地区職業奉仕総括委員長 作山 吉永 氏(高萩)

本日のメニュー

椀 小茶碗蒸し 鳥 鱧 海老
しめじ茸 みつば だし
角弁当箱にて一
刺し身 まぐろ たこ
添え野菜 土佐醤油
煮 物 豚大根煮 揚げ野菜
焼き物 鮭のバター焼 揚げ茸 ブロッコリー
飯 栗ご飯